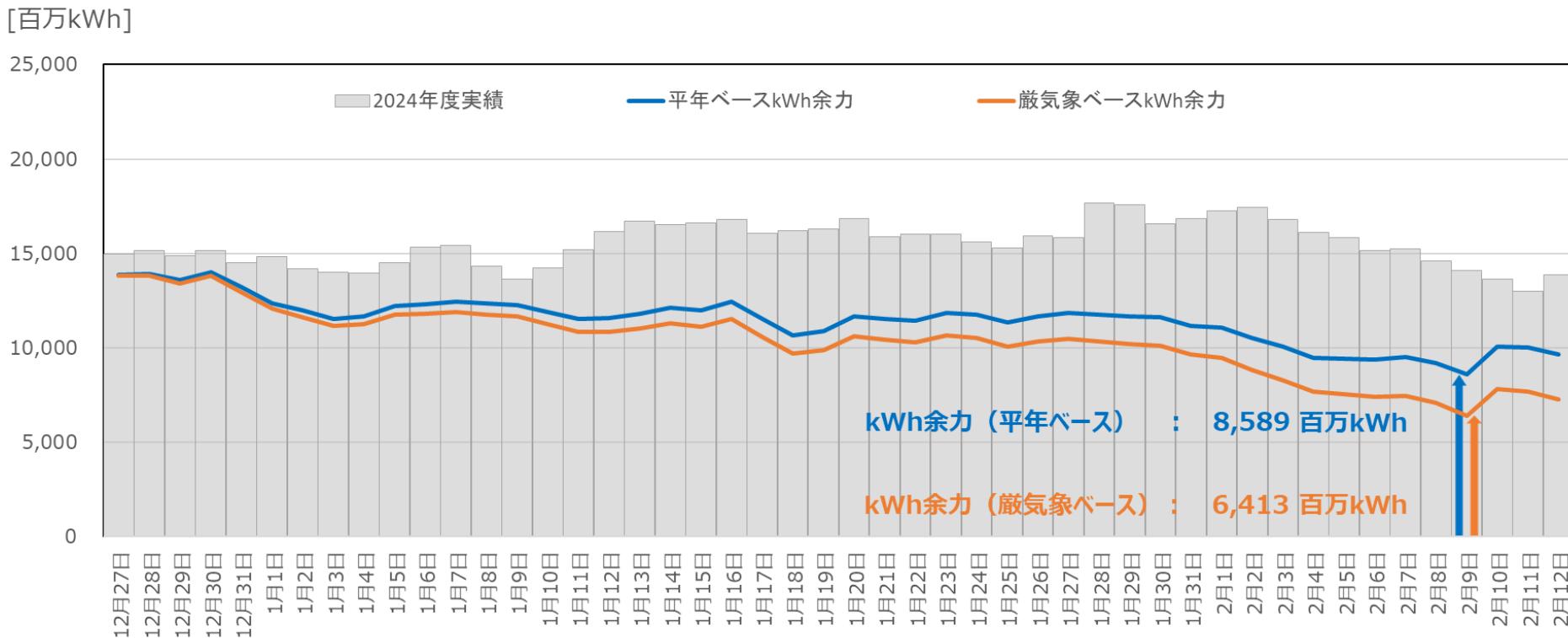


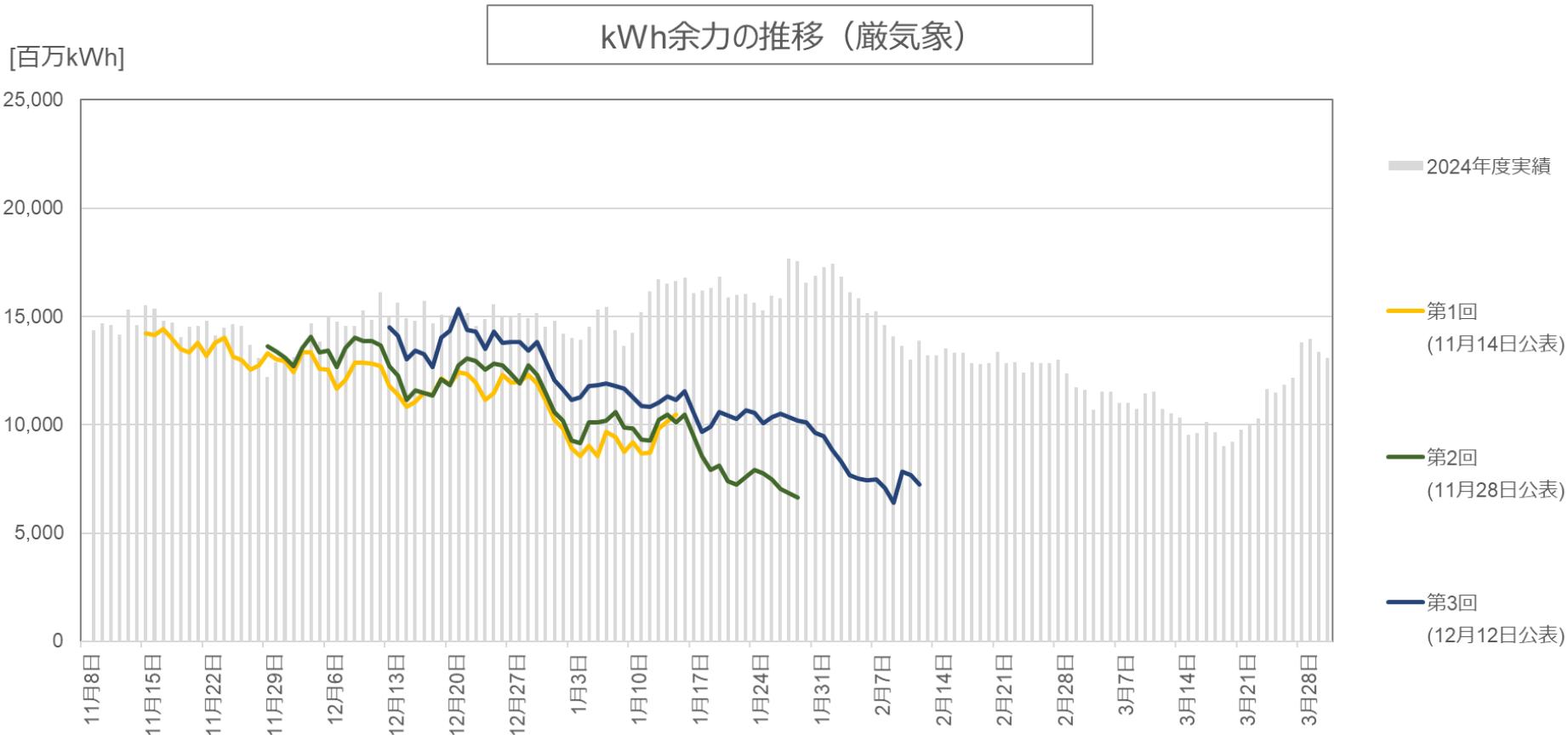
# kWhモニタリング（対象期間:12/27～2/12）の結果

- 今後、平年並で需要が推移すると、kWh余力は2月9日に最小となる見込み。その値は8,589百万kWhであり、これは、対象期間の平均電力消費量の約4日分に相当。
- 厳気象ベースで需要が推移すると、kWh余力は、2月9日に6,413百万kWhとなる見込み。これは、対象期間の平均電力消費量の約3日分に相当。
- 前回から傾向に大きな変化はなく、現時点で燃料在庫の観点からはひつ迫の恐れはないが、需要の増加や、原発・石炭発電等のベースロード電源の計画外停止によって状況が変化する可能性があり、今後も動向を注視していく。



# kWhモニタリングの結果（これまでの結果との比較）

- 前回（第2回）のkWh余力（厳気象ベース）と比較すると、一部事業者の燃料調達等の影響により、kWh余力は増加。



注：上記kWh余力の推移のうち、始めの2週間は気象予報を基にした需要を用いて算定したものであり、  
厳気象を想定した推移ではない